

大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会の開催報告

大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会座長 上村 多恵子

大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会

- 2025年大阪・関西万博開催に向けた準備が本格化するなか、夢洲地区に流入する車両等による港湾物流への影響が懸念されていることを踏まえ、港湾関係者において現状・課題、周辺情報について情報交換・共有することを目的に、国際物流戦略チーム幹事会の下に「大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会」を設置（2019年12月に第1回会議開催）。
- 第5回懇談会では、夢洲等における交通インフラ整備や物流交通対策の進捗状況について、万博工事期間中の工事車両の交通影響について、万博開催期間中の会場周辺の交通影響について、情報共有し、意見交換を行った。

第5回「大阪港夢洲地区の物流に関する懇談会」

参考：国際物流戦略チーム「今後の取組」（2022年3月とりまとめ）

■ 日時：2024年1月31日（水）13:00～14:30

■ 場所：大阪港湾局 第8、9会議室

■ 出席者：

◎上村多恵子 ロジスティクス経営士（国際物流戦略チーム学識経験者）

梶谷 英樹 大阪港運協会 理事（業務部長）

村木 亮一 夢洲コンテナターミナル株式会社 事業所長

北畑 光一 株式会社辰巳商会 専務取締役

岩井 勝彦 一般社団法人大阪府トラック協会 専務理事

田中 利光 阪神国際港湾株式会社 代表取締役副社長

神田 彰 公益社団法人関西経済連合会 理事（地域連携部長）

オブザーバー：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

事務局：近畿地方整備局、近畿運輸局、大阪港湾局

◎：座長 ※敬称略・順不同

■（参考）過去の開催実績：

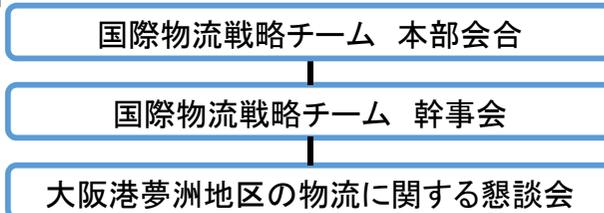
2019年12月2日：第1回開催

2021年2月8日：第2回開催

2022年1月20日：第3回開催

2023年1月19日：第4回開催

■（参考）体制図



～「今後の取組」を変更～
新型コロナウイルスの影響等によるグローバルサプライチェーンの混乱を踏まえ、
強靱で持続可能な国際物流ネットワークの構築に向けて
以下の4つのポイントを、国際物流戦略チームの**当面の重点課題**とします。

1. Withコロナ時代の国際物流ネットワークの構築

- 昨今の激甚化・頻発化する災害や新型コロナウイルス感染症が国際物流に与えた影響から、**非常時にも機能する国際物流ネットワークの構築**が一層重視されています。物流機能を維持するための**防災・減災対策**に取り組む他、国際海上コンテナ輸送の多方面・多頻度の直航サービスを充実させ、我が国立地企業のサプライチェーンの強靱化に貢献する**国際コンテナ戦略港湾政策**のさらなる深化を目指します。
- Withコロナ時代に求められる非接触・非対面型の効率的なデジタル物流システムへの転換に向け、民間事業者間の港湾物流手続を電子化する**サイバーポート（物流分野）**の普及や、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消等を目的とした**CONPAS(Container Fast Pass)**の導入を目指します。

2. 崩れないグローバルコールドチェーンの構築

- 農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする政府目標の達成に貢献するため、「**産直港湾**※」制度を活用して小口貨物の積替円滑化施設やリーファーコンテナ蔵置時の電源供給設備の整備を支援し、コールドチェーンの強化に取り組みます。
※ 農林水産物・食品の輸出处が我が国港湾からの直航サービスを活用した輸出行先となる港湾
- 新型コロナウイルス等が増加し、高品質な医薬品物流の実現への要請が高まる中、**医薬品物流に係る国際認証の取得等**に取り組みます。

3. 大阪・関西万博に向けた取組の推進

- 2025年開催の大阪・関西万博の会場となる大阪港夢洲地区及びその周辺地域における**円滑な港湾物流**を支えるため、周辺道路の拡幅や立体交差化、コンテナターミナルの物流機能強化等の**インフラ整備**に取り組みます。
- 港湾関係者や物流事業者、その他関係機関との連携により、大阪・関西万博の開催に向けた**協力体制を構築し、物流交通対策を通じた交通円滑化**を目指します。

4. 国際物流の脱炭素化(カーボンニュートラル)の推進

- 我が国の輸出入貨物の99.6%を取り扱い、多くの産業が立地する港湾及び臨海部における脱炭素化を通じて、**環境に優しく持続可能な国際物流の実現**を目指します。
- 脱炭素化に配慮した港湾・空港機能の高度化等を通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする**カーボンニュートラルポート(CNP)**を形成する等、新たに**環境価値を付加することで世界から選ばれる港湾・空港**を目指します。

資料説明

➤ 夢洲等における交通インフラ整備・物流交通対策の進捗状況

夢洲等における交通インフラ整備について、此花大橋・夢舞大橋等の6車線化は完了し、現在、交差点の立体交差化の工事等を進めている状況について報告。物流交通対策については、令和5年10月にコンテナ車両待機場を増設したことなどの進捗状況について報告。

➤ CONPASの取り組み状況

令和5年7～8月に実施した「大阪港DICT 第5回CONPAS試験運用」（輸出コンテナ(実入)・輸入コンテナ(実入)を同時に実施)の概要及び結果や、令和5年度中の運用開始に向けた取組状況について報告。

➤ 万博工事期間中の工事車両の交通影響

現状のパビリオンの工事着手時期等を踏まえた工事期間中の工事車両の交通シミュレーションを実施し、一般車両を含めた通行車両台数が概ね道路交通容量以下に収まる見込みであることについて報告。工事期間中の交通円滑化対策として、夢洲北高架橋整備の前倒し（令和6年9月末完成予定）や「工事車両運行管理システム」の運用等について報告。

➤ 万博開催期間中の会場周辺の交通影響

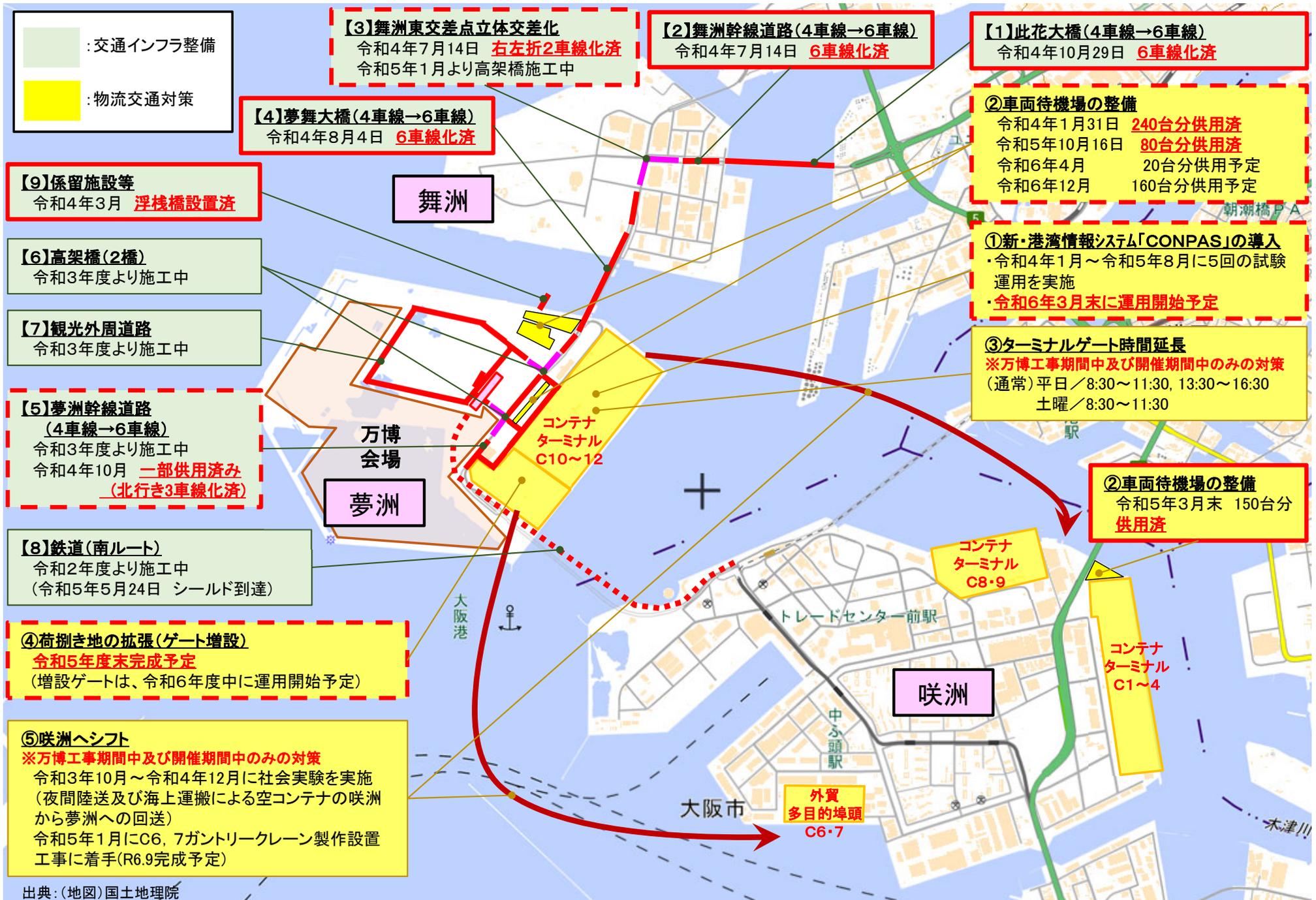
社会情勢の変化や万博輸送計画の変化を受け、会場周辺における交通影響を調査したところ、現時点の予測では、万博開催期間中に夢洲や舞洲の幹線道路には、一般交通に大きな影響がある渋滞は生じない結果であることについて報告。

意見概要

- 万博に関連する工事の更なる遅れが生じた場合、万博開催が迫るにつれて工事車両が増加し、夢洲周辺における工事車両と物流車両の混雑が懸念されるため、適切な車両動線の設定も含めてしっかりと対策を行ってほしい。
- 交通円滑化に向けて、夢洲を通過するだけの車両も含めて対策を検討してほしい。
- 様々な環境変化や不測の事態の発生も考慮して、万博と物流の両立に向けた十分な対策をとってほしい。

【参考】夢洲等における交通インフラ整備・物流交通対策について

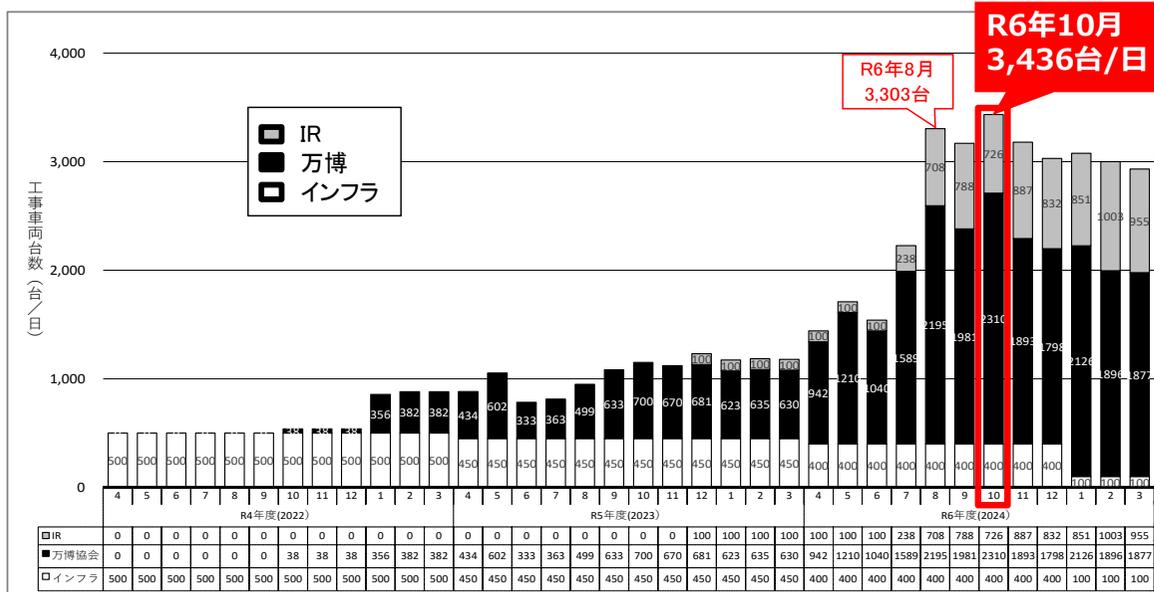
【夢洲・舞洲・咲洲等における取組状況】



【参考】万博工事集中期間における交通アクセスの改善

- 参加国が建設する海外パビリオンの建設の遅れ等を考慮した工事車両台数の想定見直しを行ったうえ、各事業の1日当たりの工事車両台数の合計が最大となる月を把握し、夢洲への各アクセスルートのボトルネック箇所における交通影響検討を実施。
- 令和5年10月、工事車両台数が大きく増加する時期までに、交通円滑化対策等(次ページ参照)を実施することで、一般車両を含めた通行車両台数が、ボトルネックとなる交差点の交通容量内におさまる見込みであることを確認した。
- 今後、随時、万博パビリオン工事等の工程を確認したうえ、工事車両台数の想定を見直し、交通影響検討を実施していく。

月ごとの1日当たりの最大となる工事車両台数



※ 現時点で想定される最も厳しい条件でシミュレーションを実施
 (全ての参加国が建設する海外パビリオンの着手時期を令和6年5月に仮定したものであり、
 実際の工程を表すものではない)

位置図

※各箇所の最も厳しくなる方向・時間帯の1時間当りの容量と乗用車通行換算台数 (pcu) を図中に記載



【参考】万博工事集中期間における交通アクセスの改善

主な対策箇所

■ 夢舞大橋南詰交差点(夢洲北高架橋の活用)

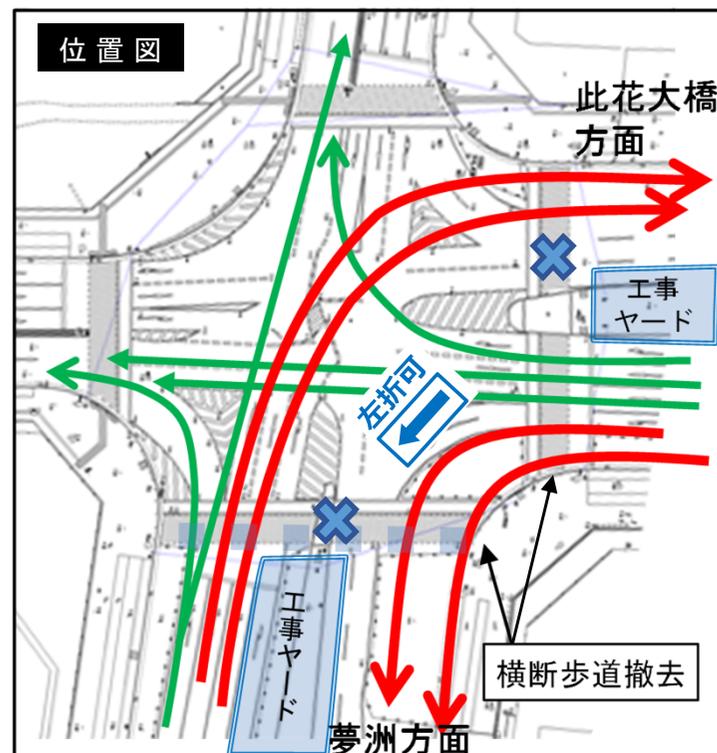
- ・ (仮称) 夢洲北高架橋を早期完成させ、工事車両通行に活用していく。
- ・ 令和6年12月末完成予定から前倒しで令和6年9月末に完成予定。



(仮称) 夢洲北高架橋架設状況 (令和5年11月時点)

■ 舞洲東交差点(夢洲方面への通行円滑化)

- ・ 此花大橋方面から夢洲方面に左折する工事車両等の交通容量を増やすため、常時左折可を実施する。
- ・ 実施時期は、現在関係機関と協議中 (令和6年2月実施予定)



※ 当初、工事期間中の対策として、左折信号増設を予定していたが、今後の工事車両の増加を考慮して、万博開催時の対策(常時左折可)を前倒しで実施。
(前ページの舞洲東交差点の容量(1,992pcu/h)は、左折信号増設の場合)